

は飛び飛びに出てくるもので御坐いますからもし早く犬歯を抜きとるときは第一小白歯が前の方によつて犬歯の位置に生える然るときは犬歯は出處がないため下の方に重つて生える様になります俗に之れを八重歯といつてをります。之れはつまり余り早く犬歯を脱きすぎた結果で御坐いますから此の犬歯に就いても充分注意をして齶歯にかゝらぬ様にしなければなりません。

保育叢話

(承前)

光藤 夫人

虚榮心の恐るべき害

虚榮の萌芽を摘み取ることに於いての意見は、いささか前述しましたが、實に此の世を擧つて虚榮の夢にあこがるゝの時自ら戒めて、此の害毒を避ける工夫が大切であります。とりわけ一家の主宰者一人或化の中心たる母親より此の念慮を賜透して自ら心を潔ふし質實な健全な氣象を養成し

て、我身先づ目につく服装よりすべて日常の身の廻りのもの、皆虚榮をさり己が一言一行にも意を用ひて、只管虚榮めきたる事のなき様、注意すること肝要であると思ひます。魂より美を好むは人の情なり、不淨なるものより清淨なるものを愛するも亦人情自然なり、故に誰れにしても衣服にしてからが、汚ない衣服より美麗なものを好み、クスマミたるものより華美を好むに至るは止を得ない事でありますが、其處が氣の用ひ所意の練り所であると私は思ひます。魂より美を好むの天性あり、以て虚榮に流れ易いのであります、其の時其の舜時、虚榮に流るゝを防ぎてきて魂より美に移る事が大切ではありますまいか、即 虚榮とは讀んで字の通り徒らに外見を張るの所、アレモコーせては美しく見えない、コレモコーしないと華かでないといふ只モ一實を去り外見にのみ心を配るのであります。同じ魂より美に移るにしても、其の外見を第二におき只其の實質に重きをおいて、魂より美に移りましたならば、家何の害が伴ひませう、衣服にあれ器具にあれ、家

塵にあれ、携帶品にあれ、皆其の實質を第一審査して然る後に外見を考へ醜より美に、不淨より清淨に移りましたならば、之れが正しい進歩でありまして、何人も其の害を受けるものはありますまいと思ひますが、いかゞで御座いませうか。しかるに世人の多くは、殊に女の多くは、就中母たる人までが、先づ外見に着眼して後實質に及ぶといふ風では、害の之に伴ふは自然の數であらうと思はれます。母已に虚榮の中心となりて、其の兒を敷養する様になりましたは、家人中殊に芽はえの様な幼男幼女の之れが感化を受けて虚榮に富んだ子女となるのは必然の結果であらうと信じます。今現に私の知る人の中でもかゝる害を其の兒に及ぼして尙すこしも悟られざるお方があるとか、ほのかに聞きましていとゞ氣の毒の感じに堪えない様なものもあります。

或る所に先づ中流の生活をして、何不自由なしに此の世を面白お可笑く暮して居る佳人があります、三千の寵愛を一身に集むるといふ楊妃姫には及ばずも、露つしたゝらん如き眼光の何となく人

を引付けける力がある。しまりし口に愛らしく小柄の美人で一人娘の我儘一杯に育てられたる節には、其の平素の行によく現はれますが、其れでも親御が當時の教育は受けさせられた甲斐がありまして可なり學藝も出來ます、マー女子として普通の人で、よくもなくわるくもないのでありますから、養子も相當な位置に身を入れて居られます、其の中に又一粒種子の愛嬢があります、マー何不足ない身分、綺羅を飾りて下女を連れての學校通ひはたの見る目羨しいと馬鹿な人でなくつても思ふかも知れませぬが、幸か不幸か、御兩親がしかも教育者で有つて、其の間に育ち給ふ嬢の如何に天受の幸福を一身に集め給ふと羨み給ふ世の人よ。母の感化の偉大なる、身は教育界にありて人を指導する天職を帯び、其の美しき魂はマー虚榮の權化とも見らるべく出來得る限りの力を此の虚榮の爲に費して、少しも耻とせざるはまたしも、却て得意氣に人に誇りてヤン着物がドーノ、それ子供洋服がどうのと心をいらだち居らるゝとか。ア、此の一人娘の將來は豫言者ならぬ私には少し

も解りませんが、いや分つても發表は出来ませんが、現在の在校中の成績はどうかと申しますに成績はよろしい相で大低な學科がよく出来相で御座います、肝心要な其の品性の劣等なる、受持教師をして密に嘆嘆の聲を洩させるといふ事では學校唯一の虚榮の女生徒は先指を此女兒の上に屈せられて聞人をして眉をひそめしめすとか。無心な此の白糸のやうな愛兒の口より先生の質素な服装より我が母様の華美なのを賞讃し、先生の銀側時計より母様の金側時計がいかにえらくも尊くも見えるのであります、先生の頭の飾まで皆此の兒の口よりけなされて、其の美しからざるを冷笑さるとか、世界廣しといへども我が母君父君ほど立派なものはないと、いと信仰の念の強く、先生の教訓も半は母様の悪感化によりて、消されて仕舞ふとはいかに其の感化の強きか、分るので御座います。

此の幼嬢は將來如何になり行く事が、今の順境で帆を擧げて行く間は目前さしたる難儀もあるまじと存じますが、それでも已に學校の教職員から持

余しものにされ、他の友人より嫌はるゝに至りては、實に寒心に堪えないので御座います。

ア、世に子を育てらるゝ母様よ、人の子を指導するゝ女教師とか言はるゝ人よ。女子であるからとて何も流行の虚榮を遂ふの必要はないのであります、否自ら戒めて且つ反省し且つ恐れて此の一世を敵ふ虚榮の黒雲を打ちはらふ勇氣を鼓してせめてもの事我が子を虚榮に陥らしめぬ様、心掛く事が切に急務ではありますまいか、そういたしましたには前述の様に醜より美に移るの時よく反省し。反省して果して自らは其の實質に重きをおけるか外見に重きをおけるかを判断して苟も心虚榮に傾けるの時は恐れ且つ戒心して其の惡風より脱する工夫をしなければなりません。要は只母の心一つにあるのであります。